

大会名称: 第61回国民体育大会(のじぎく兵庫国体)

バスケットボール競技

開催場所: グリーンアリーナ神戸 Eコート

試合区分: No. 444 少年女子 準決勝

期 日: 2006(H18)年10月4日(水)

主審: 湯浅 暢宏

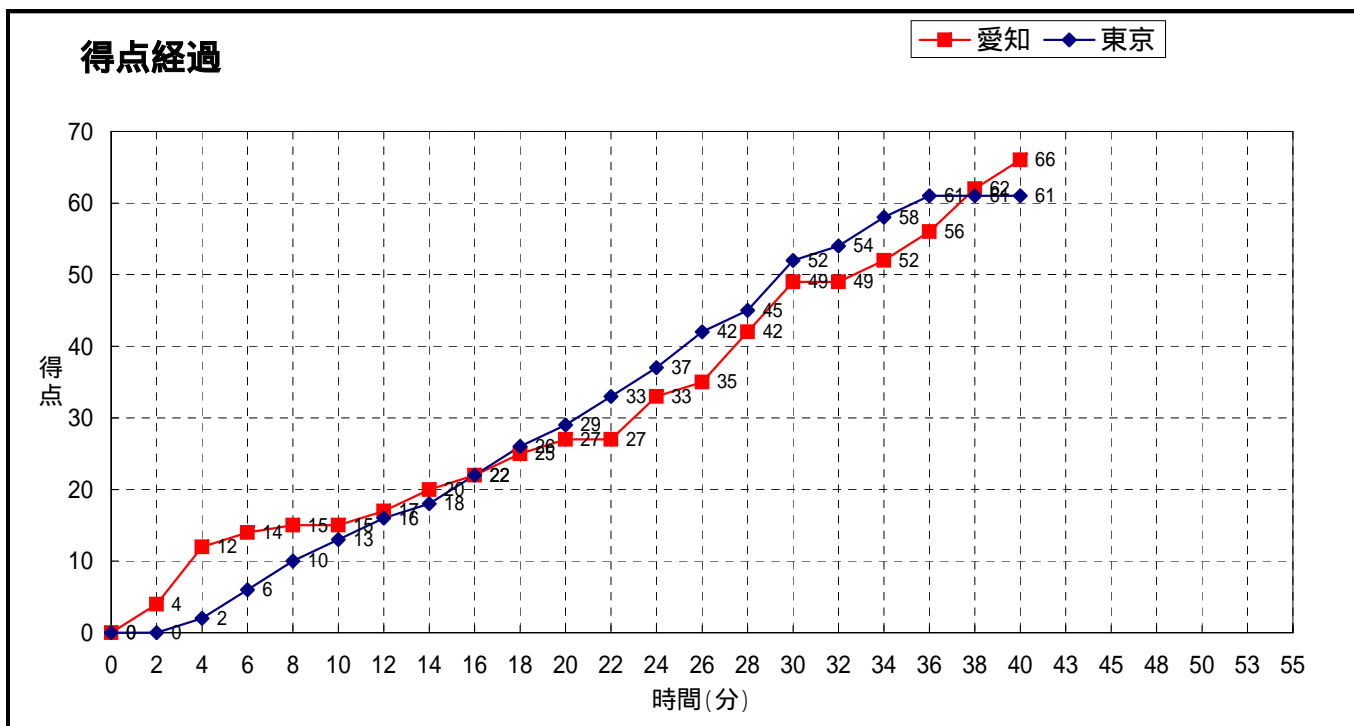
開始時間: 10:00

副審: ジョナサン・マーフィー

終了時間: 11:31

愛知		66					61					東京			
(東海)												(関東)			
		15	-st1-	13											
		12	-2nd-	16											
		22	-3rd-	23											
		17	-4th-	9											
			-OT1-												
			-OT2-												
			-OT3-												
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	服部 直子	34	0	14	6	4	4	*	有山 景子	10	2	1	2	1
5	*	堀川 夏海	4	0	1	2	2	5	*	山田 茉美	4	0	2	0	3
6	*	和田 静香	4	0	1	2	2	6	*	飯野 茉季	17	0	7	3	1
7	*	吉田 千沙	12	0	4	4	1	7		鈴木 裕子	0	0	0	0	1
8	*	佐藤 詩織	6	0	3	0	3	8		川村 美穂	-	-	-	-	-
9		牛田 悠里	-	-	-	-	-	9		中島 ひろみ	-	-	-	-	-
10		後藤 彩	0	0	0	0	2	10		大伴 茉奈	-	-	-	-	-
11		小泉 遥	-	-	-	-	-	11	*	本田 雅衣	7	1	1	2	4
12		菅沼 夏菜	-	-	-	-	-	12		光山 慈能	13	1	4	2	0
13		深野 羅定咲	-	-	-	-	-	13		天野 佳代子	3	0	0	3	2
14		内藤 しずか	6	0	3	0	2	14		清水 愛咲美	-	-	-	-	-
15		高田 真希	0	0	0	0	2	15	*	間宮 佑圭	7	0	3	1	4
コーチ		井上 真一						コーチ		下坂 須美子					
合計			66	0	26	14	18	合計			61	4	18	13	16

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール



ゲームレポート

第1ピリオド、両チームハーフコートマンツーマンディフェンスで始まる。お互い今日の調子を探るような静かな立ち上がり。お互いポストを使って攻撃を組み立てる中、先にリズムをつかんだのは愛知。#4服部が巧みなポストアップから得点を重ねる。一方、東京は愛知の厳しいプレッシャーに24秒オーバータイムが出るなど苦しみ、残り6分で10-0と愛知がリード。ここで東京はタイムアウトを取り、立て直しを図る。東京は#11本田、#12光山、#13天野が積極的に1on1を試みて相手のファールを誘い、フリースローで得点をつなぐ。愛知は残り4分間でフリースローによる得点しかあげられず、愛知が2点リードで第1ピリオド終了。

第2ピリオド、一進一退の攻防が続く。お互いシュートが決まらず、激しいリバウンド争いが起こる。愛知は#4服部、#7吉田、#14内藤のシュートで得点。東京は#4有山の3Pシュート、#12光山のドライブインシュートでつないでいく。残り3分、東京#12光山のレイアップシュートで逆転。愛知は#8佐藤のジャンプシュートで再逆転。最後は東京#15間宮のリバウンドからのバスケットボールカウントで再々逆転して東京が29-27とリードして前半を終了する。

第3ピリオド、両者マンツーマンディフェンスで始まる。東京は愛知のポストプレイに対してプレッシャーをかけ、パスを入れさせない。オフェンスでは、東京#6飯野、#12光山がミスマッチをついてポストプレイ、リバウンドシュートで得点を重ねる。愛知はオフェンスリバウンドに飛び込みボールを奪い何とかついていく。残り3分、東京の#12光山の3Pシュートが決まり、10点差がついたところで愛知はタイムアウトを取る。ここから愛知は、スペースをうまく使い#4服部にヘルプがしにくい状態を作り、ポストにボールを集めて追い上げ、3分間で11点をあげ、残り1分で同点にする。しかし、東京も#4有山がゴール下、3Pシュートと踏ん張り東京が52-49とリードして第3ピリオド終了。

第4ピリオド、立ち上がりお互いオフェンスのリズムが悪い。その中で東京は#6飯野が速攻、ドライブに得点を重ね9点リード。愛知は開始6分間で5点しか取れない。残り4分で逆転を狙い、2回目のタイムアウトをとる。ここから一気に愛知が爆発し#4服部、#7吉田のゴール下シュート、残り2分で#8佐藤の2連続パスカットからドリブルシュートを決め愛知が62-61で逆転。東京はたまたまタイムアウトをとるが、愛知の勢いは止まらず、愛知#4服部のリバウンドシュートで3点差をつける。残り37秒、東京2回目のタイムアウトを取り、ゾーンプレスディフェンスをしかけ、ボールを奪いにいくが、愛知にオフェンスリバウンドを取られ攻撃ができない。ここからファールゲームに持ち込み何とかオフェンスにつなげたいが最後は愛知#5堀川が落ち着いてフリースローを決め66-61で終了、決勝に駒を進めた。チームのスタイルを出せた愛知の勝利で終わったが、見ごたえのあるゲームであった。

担当者: 上山 照仁(兵庫県バスケットボール協会)

(財)日本体育協会・(財)日本バスケットボール協会